

高畠高生の活躍

山形新聞社「1学級1新聞」による「新聞の読み方講座」が、1年次生を対象に実施され、その時の様子が新聞に掲載されました。記事には、高橋光明君のコメントが紹介されています。

人生の可能性 広げて 高畠高で読み方講座



新聞の活用法などを学んだ読み方講座
＝高畠町・高畠高

考えるチカラは知ることから 1学級1新聞

地方創生をテーマに山形新聞社が提唱する「1学級1新聞」を導入している高畠高（高畠町、吉田晴美校長）で25日、新聞の読み方講座が開かれ、1年生36人が新聞の活用法を学んだ。

山形新聞の黒沢光高南陽支社長が、同日付の本紙な

どを使って説明した。新聞を読むことで「知識がたくさん得られるだけでなく、物事への興味関心や感受性が高まる。人生の選択肢が増えれば、人生の可能性は限りなく広がる」と強調し「見出しと第1段落を読むことから始めて、毎日読むことを習慣付けよう」と呼

びかけた。

高橋光明さん(15)は、これまでネットニュースを見ていたが、新聞の正確性や信頼性を実感した。家や学校でも読む習慣を身に付けたい」と話した。

県内高校を対象にした1学級1新聞は、山形新聞社OBの故鈴木正氏の篤志で設立された「鈴木基金」を活用し、趣旨に賛同する企業の協力を得て実施している。県内の全ての公立高、高等専門学校計6校に本紙を届けている。（黒沢光高）

令和5年4月26日(水)「山形新聞」から